

民自連携

特例公債 打開探る

「安住・菅」頼み

民主、自民両党の執行部は11日、正式な始動から約2週間を経てようやく初顔合わせをする。野田首相と安倍総裁、奥石、石破両幹事長の間にはホットラインがない中、両党首に近い安住淳、菅義偉両幹事長代行が唯一のパイプとして電話会談を重ね、接点を探っている。だが、衆院解散や将来の民主、自民連携を巡る立場の隔たりは大きく、「安住・菅ライン」が機能するかどうかは見通せない。

民主党が自民党に協力を求める政策

政策	自民党の反応
特例公債法案	法案を通したいなら、「近いうちに信を問う」という約束を果たすべきだ。民主党にボールはある(安倍総裁)
衆院選挙制度改革	首相が約束をきちんと確認さえすれば、当たり前のことを当たり前のようにやる(石破幹事長)
社会保障制度改革国民会議の設置	抜本的な選挙制度改革の前に、0増5減で憲法状態を解消すべきだ(安倍総裁)
	政府の専権事項だから勝手にスタートするということにはならない(石破幹事長)
	作るだけ作って、本格的な議論は衆院選後にすればいい(党幹部)

執行部さよう初顔合わせ

「国家の運営にどう責任を持つか」という心構えが恐ろしく欠如している。そのうち、自民党が何とかしてくれないという甘えが非常に強いのではないかと、自民党の石破幹事長は10日、都内で記者団に対し、

ただ、当時は岡田副総理や藤村官房長官が自民党の大島理森前副総裁と接触していたほか、大事な局面では、首相自らが谷垣禎一前総裁の携帯電話に電話をかけ、トップ同士で交渉した。谷垣氏は「首相とはケミストリー(相性)が合う」と語っていた。

しかし、首相と安倍氏の個人的関係は希薄で、これに代わる有効なパイプも確立されていない。現在のところ、両執行部の間で意思疎通に使われているのは、安住、菅両幹事長代行のパイプだ。安住氏は、先の通常国会では財務相として、消費税引き上げを柱とした社会保障・税

菅氏、解散で強硬

安住氏は幹事長代行に就任後、菅氏の携帯電話に連日のように電話をかけ、予算見直しなどの妥協を示唆しつつ、赤字国債の発行を可能にする特例公債法案の臨時国会での成立に協力を要請している。これに対し、菅氏は、一体改革の成立につながった民主、自民、公

安住氏は早大雄弁会出身で、先の通常国会では、雄弁会の先輩で、自民党の執行部に影響力のあった青木幹雄元参院議員会長や森元首相に根回しする「裏技」も使い、効果を上げたといわれる。安住氏は最近も青木氏と会談したというが、新執行部の菅氏や石破氏は、青木、森両氏の影響力が及ばず、同じ手は通じそうにない。

民主党内からは、「民主」との連携に否定的な菅氏が交渉相手では期待できない」とし、「安住・菅ライン」での打開に悲観的な声も出ている。



民主、自民両党の旧体制と新体制の比較